

20010

当院における DES の再狭窄に関する検討

¹健康保険南海病院、²健康保険南海病院

河津 敏郎¹、伊藤 健一郎²

[はじめに]当院において薬剤溶出型ステント (以下 DES) の使用が開始され約 5 年が経過し、CYPHER の登場から TAXUS、Endeavor まで現在では 3 種類の DES が使用されている。そこで、今回当院での DES の使用率と再狭窄率から、各 DES の留置法等を再検討した。[目的]各 DES の再狭窄病変の傾向を出し、より適切な使用法を検討する。[対象]TAXUS ステント使用開始以降 (2007 年 5 月～) の DES 使用症例。[結果]TAXUS 使用開始後の DES の使用数は合計 452 本、287 症例であった。そのうち、CYPHER の使用割合は 2007 年 5 月から 2009 年 2 月までで DES の総使用数の 62.5%、2009 年 3 月から 2009 年 4 月までで 50%、2009 年 5 月以降で 40%とそれぞれ TAXUS Liberte、Endeavor の使用開始とともに使用割合は減っていた。再狭窄率は TAXUS 使用開始以前の CYPHER の再狭窄率が 4.5%だったことに対し、CYPHER で 12.4%、TAXUS で 8%と増加していた。[まとめ]DES 使用開始時と比べ TAXUS 使用開始時では PCI の適応がかなり広がり、オペに回っていた症例や ACS の症例にも DES が使用されるようになり以前より再狭窄率は高くなっていた。今後は再狭窄病変の検討し、SES、PES のみならず、ZES、EES の使用によりさらに DES の有効性について考えなければならぬと考える。